

MAJIN SAITAMA

埼玉さいたま

埼玉県の遺跡と出土品の情報誌

No. 63



特集①

県内初の特別史跡に指定

埼玉古墳群（行田市）

特集②

新たに国の史跡に指定

神明貝塚（春日部市）
午王山遺跡（和光市）

行田市 丸墓山古墳(埼玉古墳群) 写真:埼玉県教育委員会

さいたま発掘情報 (2019年1月~12月)

令和元年度文化財収蔵施設 新収蔵資料

「古代から教室へのメッセージ」と「学習用キット」

まいぶん探訪 狭山市立博物館

監修/発行 埼玉県教育委員会
企画/編集 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」



埼玉古墳群 (行田市)

令和初の特別史跡

監修…県立さきたま史跡の博物館

特別史跡とは、「史跡のうち学術上の価値が特に高く、我が国文化の象徴となるもの」とされ、有形文化財という「国宝」に相当します。全国で 63 番目、古墳群としては昭和 27 年（1952）以来 67 年ぶり 3 例目、令和初の特別史跡となります。

同時に神明貝塚、午王山遺跡が国指定史跡となりました。史跡とは「我が国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、かつ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において、学術上価値あるもの」とされています。なお、午王山遺跡は県内初の弥生時代の国指定史跡となります。

今回の指定により、県内の国指定史跡は 22 件（うち特別史跡 1 件）となりました。（文化資源課）



鉄砲山古墳 調査風景



將軍山古墳出土 馬冑



埼玉古墳群は 5 世紀後半から 7 世紀後半の約 150 年間に作られた 11 基の大型古墳と小円墳群で構成されます。そのうち稲荷山古墳、丸墓山古墳、二子山古墳、愛宕山古墳、瓦塚古墳、奥の山古墳、將軍山古墳、鉄砲山古墳、中の山古墳の 9 基の大型古墳と小円墳群が史跡指定され、範囲は約 27.7 万㎡です。

埼玉古墳群の前方後円墳は①軸方向がほぼ南北、②西側に造出しが作られる、③方形に二重周堀が作られる、という共通する特徴を備えており、築造に関して強い規範意識があったと考えられます。また、各大型古墳間が非常に近接しており、周堀が重複する古墳も確認されています。



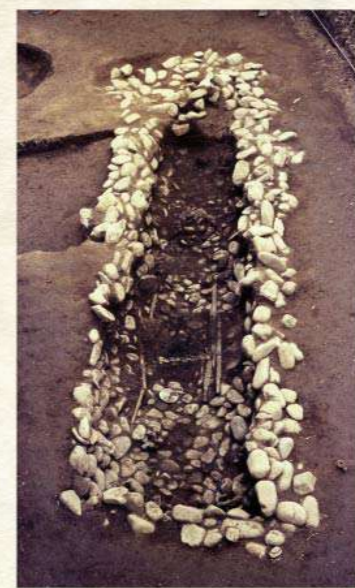
埼玉古墳群全景



稲荷山古墳全景

国宝 金錯銘鉄剣(表)

稲荷山古墳では昭和 43 年に発掘調査が行われ埋葬施設から様々な遺物が出土しました。昭和 53 年に遺物保存処理の最中見つかった金錯銘鉄剣は、当時「世紀の大発見」と大きな話題となりました。昭和 58 年、他の礫櫛出土遺物とともに「武蔵稲荷山古墳出土遺物」として国宝に指定されました。これらの国宝は、他の出土遺物とともに、埼玉古墳群に隣接する埼玉県立さきたま史跡の博物館で見学することができます。



稲荷山古墳 礫櫛

埼玉古墳群



県立さきたま史跡の博物館 行田市埼玉 4834

《 国史跡指定 》 神明貝塚 (春日部市)

ばていけいかいづか 馬蹄形貝塚を伴う集落遺跡 (縄文時代後期前半)

監修：春日部市教育委員会

神明貝塚は春日部駅から北東へ約 8km の下総台地宝珠花支台に立地し、奥東京湾最北部の汽水域に形成された縄文時代後期前半 (3800 ~ 3500 年前) の馬蹄形貝塚 (東西 160m、南北 140m) です。

神明貝塚全景 白色部分は貝層の範囲です。右奥に見える川は江戸川。



貝層断面 (平成 27 年度調査)

昭和 36 年の県立浦和第一女子高等学校による調査を皮切りに、過去 12 回の調査で住居跡 31 軒、土坑 36 基、墓 5 基、焼土跡 38 基などを検出しました。

住居跡の分布は、集落の前半期には外側に、後半期には内側へと次第に移り、それとともに、住居跡の平面形態が円形から方形へと変化する様相が確認されました。また、住居跡の炉跡や焼土跡に堆積した灰層からは、アマモなどの海草に付着する微小生物が確認され、塩作りの可能性が示されています。



7号住居跡炉跡 厚い灰層から海草に付着する微小生物が確認されました。

貝殻の 99% は汽水性のヤマトシジミで、わずかにカキ、ハイガイ、ハマグリを含みます。魚骨は淡水魚のコイ、ドジョウ、ウナギ、海水魚のイワシ、ボラ、スズキ、クロダイなどのほか、産卵のため湾奥に遡上するフグが確認されています。

また、クリやクルミ、ダイズやアズキなどの炭化物も確認されており、石器の半数以上は磨石や石皿などの植物加工工具が占めています。人骨の炭素窒素安定同位体比は陸上の動植物に近い値を示しており、貝塚の東側の沖積地から多量のクリ花粉を検出していることから、神明貝塚では植物資源が多く利用されていたことが分かりました。



集落での作業 (イラスト：石倉慶子)



7号住居跡 (平成 27 年度調査)

床面が真っ赤に被熟しています。後期前葉。平面形態は円形。

このように、神明貝塚は縄文時代の集落の様相や生業の多様性を知ることができる重要な遺跡であり、そのほぼ全体が良好な状態で保存されていることから、国史跡に指定されました。



サメ椎骨製耳栓



平成 28 年度調査風景



5号人骨 (平成 28 年度調査)

壮年ないし熟年期の女性
右耳にサメ椎骨製耳栓、右手首にサトウガイ製貝輪を装着

神明貝塚

春日部市西親野井字神明 622 番 1 地

《 国史跡指定 》

午王山遺跡 (和光市)

かんごうしゅうらく
大規模な環濠集落 (弥生時代後期)

監修：和光市教育委員会

概要

午王山遺跡は、和光市の北側新倉3丁目に所在し、荒川低地を望む独立丘上に位置しています。遺跡面と麓との高低差は約18mを測ります。

旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の各時代の遺構・遺物が存在する複合遺跡ですが、特に弥生時代の遺構・遺物が多数出土しており、南関東有数の弥生時代後期における環濠集落遺跡として広く知られています。



第12次発掘調査風景



第8次調査空撮

銅鐸形土製品と勾玉

これまでの成果

昭和53年度から過去15回にわたる発掘調査により遺跡の内容が把握され、150軒を超える住居跡と丘縁辺部に掘削された多重の環濠が検出されています。

午王山遺跡は、弥生時代後期の
大規模な環濠集落であり、出土土器からは中部高地系の岩鼻式、南関東系の久ヶ原式、東海東部系の菊川式の系譜を持つ下戸塚式土器の3系統の土器が確認できること、また銅鐸形土製品や带状円環銅釧が出土していることなどから、関東における弥生時代後期の地域間交流の実態を考える上で重要な集落遺跡と言えます。



下戸塚式土器

岩鼻式土器と久ヶ原式土器



埼玉県マスコット「コバトン」



遺跡全景 (平成31年4月)

環濠推定ライン



遺跡の模型作成



指定までの流れ

午王山遺跡の重要性を鑑み、平成25年に第15次調査区を公有地化し、和光市

指定文化財(史跡)に指定することで遺跡の保存を進めました。また、平成30年には午王山遺跡から出土した弥生時代の遺物121点が埼玉県指定文化財(考古資料)に指定され、遺跡・遺物ともに重要性が周知されてきました。平成31年には午王山遺跡のこれまでの調査成果を総括した報告書を刊行しました。その後、意見具申書を提出し、国の文化審議会の答申を経て国史跡指定となりました。

午王山遺跡



和光市新倉3丁目2831番1他

市内初！弥生時代中期の竪穴住居跡

① 城山遺跡第96地点 (志木市)

遺跡は、東武東上線志木駅から北西へ1.2kmの北側に柳瀬川を望む台地上に位置しています。これまでの調査で、旧石器時代から中近世へと続く複合遺跡であることがわかっています。今回の調査で注目される点は、市内初となる弥生時代中期の竪穴住居跡1軒と方形周溝墓1基が検出されたことです。住居跡からは、壺・甕・高坏や、挟入り柱状片刃石斧・扁平片刃石斧・石包丁などの土器や石器が、大変良好な状態で発見されました。

調査機関：志木市教育委員会

土器出土状況



調査区全景(合成)



発掘調査風景



弥生時代中期の竪穴住居跡



磨製石器出土状況

古墳時代後期末の古墳と中世後期の堀跡

② 川越城跡第37次調査 (川越市)

遺跡は、川越台地の北東に立地し、調査地は、城の南西隅付近に当たります。調査の結果、古墳1基と中世の堀跡2条が見つかりました。古墳は、上部が削平されていましたが、周溝から直径約23mの円墳と推定されます。河原石積の横穴式石室から直刀・金銅製柄頭(圭頭大刀)・ガラス玉・耳環等の副葬品が出土しました。柄頭の製作年代から、6世紀末から7世紀中頃までの築造と考えられます。旧市街地中心部における古墳調査の初例であり、また城の南西部外側に中世の堀跡が見つかったことは大きな成果です。

調査機関：川越市遺跡調査会
文：川越市教育委員会



古墳石室発掘状況



金銅製柄頭出土状況



古墳完掘状況(調査区東側)



古墳周溝の調査風景

直刀出土状況



古墳完掘状況(調査区東側)

さいたま発掘情報
2019年1月~12月



ふくべん のきまるがわら
複弁の軒丸瓦が出土!

③ 勝呂廃寺 (坂戸市)

遺跡は、坂戸市石井にあり、北側に越辺川を望む坂戸台地縁辺に位置しています。これまでの発掘調査により、廂をもつ楕圓柱建物跡や大溝をはじめ、礎石建物や塔が存在した可能性も考えられています。

今回の調査は、駒沢大学と合同で実施し、寺院に関連する遺構が存在しているのか確認しました。調査の結果、幅約3m、深さ約1.5mの大溝や竪穴住居跡などが発見されました。また、出土した瓦のうち複弁の軒丸瓦は、勝呂廃寺では初めての出土であり注目されます。

調査機関・文：坂戸市教育委員会



調査区全景(上から)



現場見学会の様子



大溝



複弁軒丸瓦出土状況

古代の秩父を発掘

④ 大宮上宮地遺跡 (秩父市)

遺跡は荒川右岸の河成段丘上に位置し、かつて秩父太平洋セメント第一プラントがあった場所に立地します。調査面積は300㎡程度と小規模ですが、住居跡4軒、土坑6基、溝4条が検出されました。中でも14基検出されたピットは、その多くが柱穴の痕跡を伺わせる土層であり、建物群の可能性を伺わせません。一方で遺物の出土量は極めて少なく、コンテナ1箱分程度に止まりました。

調査機関・文：秩父市教育委員会



住居跡遺物出土状況



調査区全景



発掘調査風景

全国初！平安時代の竪穴住居から八稜鏡と槍先が出土

⑤ 北尾崎北遺跡 (羽生市)

遺跡は羽生市の利根川右岸の自然堤防上に位置します。これまでの調査で、平安時代の竪穴住居跡や中世の館や墓などが見つかりました。

平安時代中頃の同一の竪穴住居跡から、八稜鏡と呼ばれる小型の鏡と鉄製の槍先が見つかりました。住居跡からの出土は全国初と考えられます。鏡と槍先は、祭祀遺跡から見つかる例があることから、遺跡出土の鏡と槍先も祭祀に関わる遺物と考えられます。この集落に祭祀を執り行う人物がいたり、保管を担う人物がいたであろうことを物語る貴重な発見です。

調査機関・文：
(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



調査区全景



竪穴住居跡遺物出土状況



出土した槍先

出土した八稜鏡



令和元年度 文化財収蔵施設 新収蔵資料

埼玉県文化財収蔵施設には、県内各地の発掘調査で出土した資料が40万点以上収蔵されています。発掘調査で発見された資料は、報告書刊行が終了すると文化財収蔵施設に収蔵され、学校教育、生涯学習、博物館等、様々な場での活用が図られています。

今回は、栗橋宿跡関連の資料を紹介します。令和元年度は、栗橋宿に関する多くの資料が収蔵されました。今後、日光道中栗橋宿について考える上で、大変貴重な資料となっています。

『栗橋宿跡』I

事業団報告書 448 集



写真① 土壙出土の磁器



写真② 出土した焙烙

写真①は、長軸7m・短軸4mという大型の土壙から出土した磁器の一部です。この土壙からは、複数の地域で生産された多量の陶磁器等が出土しています。皿の裏側には、屋号らしきものが刻印された磁器が確認できますが、いったいどのようなお店だったのでしょうか。また写真②は、豆類等を炒る際に使用した焙烙ほうろくです。現在のフライパンのようなものです。

『栗橋宿本陣跡』I

事業団報告書 451 集



写真③ 土壙出土の被熱した陶磁器



写真④ 出土した瓦類

本陣敷地付近では、火災処理に関連する土壙が検出されており、陶磁器（写真③）・瓦類（写真④）などが多量に出土しました。写真④のほぼ中央には、「揚羽蝶」の家紋あげはちょうの付いた鬼瓦が見られます。これは本陣池田家の家紋であり、本陣の建物も被災した可能性が考えられています。

「揚羽蝶」の家紋の付いた鬼瓦

埼玉県収蔵埋蔵文化財保存活用業務委託（普及業務）

出前授業「古代から教室へのメッセージ」

埼玉県教育委員会では、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（以下、事業団と表記。）を実施機関として、毎年県内の小中学校40校に、出前授業「古代から教室へのメッセージ」を行なっています。



授業は、ふだん発掘調査等に従事している事業団の専門職員が、埼玉県内から出土した本物の土器や石器を持参して行います。子どもたちが、土器や石器を「観て、触って、考える。」体験型の内容になっています。



子どもたちは、煮炊きに使用した縄文土器・弥生土器・古墳時代の土師器に触れ、「同じ煮炊き具（なべ）なのに、どうして時代によって形が違うのか。」といった課題を考えながら観察し、グループごとに話し合い、最後に発表を行います。



本物の土器と炉やカマドの模型を使用して解説を行います。



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっちゃん」

土器・石器・埴輪 無料貸出サービス “ほんもの” を教室へ

「学習用キット」

埼玉県教育委員会では、「学習用キット」として本物の土器や石器、埴輪の貸出しも行っています。社会科（歴史）や図工の教材として、ご利用いただいています。

問合せ：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団
埼玉県熊谷市船木台4丁目4-1
◀くわしくはこちら 0493-39-5345



まいぶん探訪

狭山市立博物館

狭山市立博物館は、広く市民のため資料の収集、保存、調査・研究、展示などを通して、狭山の先人たちの足跡を将来に伝えていくことを目的に、平成3年11月に開館しました。常設展示では、「入間川と入間路ーその自然と風土ー」を基本テーマとし、そこで育まれた生活と文化を築いた人々にスポットをあて、狭山の歴史を通史的に学べる展示となっています。



展示室と活動の様子



常設展示(縄文時代中期の土器)



ワークショップ



企画展の様子



ボランティアによる常設展の展示ガイドも行っています。



埋蔵文化財・野外体験講座「さやま遺跡さがし隊」

博物館では、年4回の企画展を開催しています。また開催にともないワークショップや関連講演会が行われます。詳細は、博物館にご確認ください。



狭山市立博物館のご案内

- 住所 〒350-1324 狭山市稲荷山1-23-1
- 開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始(12月27日から1月4日まで)
施設・設備点検等により、休館する場合があります。
- 入館料 ※企画展開催中は、企画展料金が発生する場合があります

区分	入館料(1人につき)	
	個人	団体(20人以上)
一般	150円	100円
高校生・大学生	100円	60円
小学生・中学生	無料	無料

- 次の各種手帳をお持ちの方は、付き添い1名まで免除になります。
〔身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳〕
- 敬老の日は、65歳以上の方は免除(無料)になります。
- 県民の日(11月14日)は、全員免除(無料)になります。

- 交通案内 西武鉄道池袋線「稲荷山公園駅」より徒歩約3分
西武鉄道新宿線「狭山市駅」西口よりバス「稲荷山公園駅行」終点で下車、徒歩約3分
圏央道狭山日高インターより車で約15分
- 問合せ 狭山市立博物館
- 電話 04-2955-3804

